

OECD 開発援助委員会（DAC）の業務を探る！

～DAC へ出向されていた JICA 職員訪問～

5月22日、私たち中央大学 OECD Student Ambassador は JICA（国際協力機構）から2年間 OECD に出向されていた三田村達宏氏にお話を伺うため、JICA 本部を訪問しました。

三田村氏は OECD の開発援助委員会(DAC)の代表部に出向し仕事を行っていた経験をお持ちです。DAC とは援助統計や援助審査を主な業務としている機関で 29 か国の加盟国から構成されています。業務内容は DAC 関連会合を主とし、会合前の資料精査・対処方針案の作成など・会合中は対処方針に沿った発言やメモ取りなど・会合後は報告電報案の作成などです。

三田村氏にとって最も印象に残った国際会議は釜山宣言が発表された「第4回援助効果向上に関するハイレベルフォーラム」だそうです。例えば、タンザニアなどの開発途上国にそれぞれの援助国がバラバラに支援を行うのではなく、どこの国が何を支援すべきなのか、協力して支援をする協定のようなものです。

OECD 加盟条件として OECD の理念を共感できているということがあげられますが、日本は加盟が遅れたので、OECD 設立時から加盟した国々と価値観を共有することができずに孤立することがありました。具体的な例としてあげられるのが、OECD の理念に従った援助のアンタイド化に関してです。例えば学校を建設するという支援を行う際、自国の企業に委託して支援する援助ではなく、OECD は直接被援助国に資金を提供し被援助国が援助国に限定せず他国も入札に参入できる国際入札を行う方法をとるべきだと主張しています。これを援助のアンタイド化といっています。このようなことを巡って、協定を結ぶ際に日本の意見が通りにくなくなりましたが、三田村氏は他国と提携するなど日本が不利になることのない協定の締結にむけて交渉を行ってきました。

2013年における日本の ODA 実績（グロス）は DAC 主要国の中で第2位です。また、日本は主にアジアにむけた援助を行っています。日本は第二次世界大戦後の復興の際、世界銀行からローンを借りていた経緯があるので日本も積極的にローンの貸し付けを行っています。

日本のグロスの ODA 実績は第2位ですが、これは円借款については貸し付け金額をベースに

した実績です。貸し付けを行うと返済が生じますので、この返済分を引いたネットの金額で見ると日本の ODA 実績は第 4 位になっています。

現在、OECD を含めた国際機関で働く日本人は減少の傾向にあります。

OECD パリ本部には 100 名以下の日本人が勤務していますが、その半数以上は三田村氏のような外部機関からの出向者です。この数字は他国と比較するととても低い数字になっています。原因は言葉の壁によるもので、日本人は英語を苦手とするので OECD に入るために行われている試験を受ける人もとても少ないそうです。

OECD に加盟しているアジアの国は日本と韓国だけです。アジアの代表として OECD にいち早く加盟した日本はもっと積極的に、日本やアジアのことをアピールしていく必要があります。今後、アジアがどのように発展していくのかは日本次第だと思います。

今回の訪問で 7 月の「世界の貧困と OECD」をテーマとしたイベントでの講演を三田村氏に依頼しました。パリの OECD 本部で働いていた時の体験談を直接聞けるいい機会ですので、ぜひお越しください。

OECD クイズ（皆さんトライしてみてください！○か×でお答えください）

1. OECD は「金持ちクラブ」なので GNI（国民所得）が一定水準に達した国は加盟することが可能である。
2. OECD に加盟した国は自動的に DAC に加盟する。
3. EU 諸国はみな OECD に加盟している。
4. OECD の事務総長はメキシコ人。従って、メキシコは OECD の加盟国であり、DAC の加盟国である。
5. DAC 統計によれば、日本の ODA 規模は米国に次いで世界 2 位である。
6. ミレニアム開発目標は DAC で策定し合意された。
7. OECD 本部はパリにあり、仏政府の機関であり、公用語は仏語である。
8. DAC 本会合は年に 1 回開催される。
9. 日本政府 OECD 代表部で一番偉い人の肩書は「常駐代表」である。
10. 日本政府 OECD 代表部ではフランス語で会議が行われている。

正解：全て×